

研究主題「自分の考えを伝える力を育成する総合的な学習の時間の指導の工夫」 ～ビデオプレゼンテーション活動を通して～

東京都教職員研修センター 研修部 企画課
品川区立御殿山小学校 教諭 高木 圭一

研究のねらい

「東京の教育に関する都民意識調査（平成 15 年 6 月東京都教育庁）」から、児童・生徒への自分の考えを伝える力の育成が求められていることが分かった。その一方で「総合的な学習の時間の成果に関する調査研究（平成 15 年度東京都教職員研修センター紀要）」では、児童が、集めた情報から自分の考えをもつことはできるが、それを他者にうまく伝えることができないと感じているという実態が明らかになった。総合的な学習の時間における、考えを伝える活動には、大切な役割がある。自分の考えを他者に伝えることは自らの考えを深めることにつながり、他者の考えを知ることは自己の生き方を考えることにつながる。

そこで本研究では、自分の考えを正しく分かりやすく伝えるために、相手の状況などに応じて、表現の方法を工夫する力を「自分の考えを伝える力」ととらえ、小学校の総合的な学習の時間において「自分の考えを伝える力」を育成するための指導の工夫を明らかにすることをねらいとした。

研究の内容と方法

1 基礎研究

「総合的な学習の時間の成果に関する調査研究（平成 15 年度東京都教職員研修センター紀要）」を分析し「自分の考えを伝える力」を育成するための指導上の課題を明らかにするとともに、指導の工夫の視点を明確にした。

2 授業研究

基礎研究の考察から得られた視点を基に「自分の考えを伝える力」を育成するための指導の工夫を取り入れた指導計画を作成し、第 5 学年を対象に検証授業を実施した。

研究の結果と考察

1 基礎研究

(1) 「自分の考えを伝える力」とは

先行研究の分析から「自分の考えを伝える力」は「相手を意識して伝えようとする態度」と「正しく分かりやすく伝えるための知識・技能」から構成されるととらえた。そして、「相手を意識して伝えようとする態度」については、自分の伝え方を振り返り改善する活動を多く経験することが必要であり、「正しく分かりやすく伝えるための知識・技能」については、各教科で学習したことを生かすことが必要であると考えた。

(2) 「自分の考えを伝える力」を育成するための指導上の課題

「自分の考えを伝える力」の育成という観点から「総合的な学習の時間の成果に関する調査研究（平成 15 年度東京都教職員研修センター紀要）」を分析し、指導の課題として以下の 2 点が不十分であるととらえた。

各教科の指導内容と総合的な学習の時間における活動との関連

調査結果から、児童が、各教科で学習したことを総合的な学習の時間に生かす力が身に付

いていないと感じていることが分かった。

児童が自らの伝え方を振り返り、改善する活動

調査結果から、児童が自らの活動について振り返り、さらによい方法を考える力が身に付いていないと感じていることが分かった。

(3) 「自分の考えを伝える力」を育成するための指導の工夫

各教科で学習した伝え方を総合的な学習の時間で生かせるようにするための指導の工夫

総合的な学習の時間で児童が取り組む課題は一人一人異なり、伝えようとする内容や伝え方もまた多様である。ゆえに、教師が具体的な指導及び支援をするためには、児童の既習事項を把握し、発達段階に応じた伝え方に関する指導目標を明確にすることが必要である。

そこで、以下の指導の工夫を考えた。

ア 「伝え方に関する指導内容表」

小学校学習指導要領から伝え方に関する各教科の指導内容を抽出し「伝え方に関する指導内容表」(表1)を作成した。これによって、伝え方に関する児童の既習事項の把握と指導目標の明確化を図った。

イ 「伝え方学習一覧表」と教科書の活用

「伝え方に関する指導内容表」を基にして、「伝え方学習一覧表」(表2)を作成した。この表は、教科書から伝え方に関する指導内容を抽出して、その掲載箇所を整理したものである。この表と教科書を活用することで、教師は、具体的な指導及び支援が可能になる。また、児童は、自ら各教科で学習したことを総合的な学習の時間の活動に生かせると考えた。

表1 伝え方に関する指導内容表(一部抜粋)

活動	教科	関連する指導内容				
		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
文章を書く	国語	B書くこと ア 相手や目的を考えながら、書くこと。 イ 書くこととする題材に必要な事柄を集めること。 ウ 自分の考えが明確になるように、簡単な組立てを考えること。 エ 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書くこと。 オ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いないことに注意すること。	B書くこと ア 相手や目的に応じて、適切に書くこと。 イ 書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること。 ウ 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えること。 エ 書くこととする事柄の中心を明確にしなが ら、段落と段落との続き方に注意して書くこと。 オ 文章のよいところを見付けたり、間違 いなどを正したりすること。	B書くこと ア 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと。 イ 全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること。 ウ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組立ての効果を考えること。 エ 事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく(書いたりすること。 オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。	B書くこと ア 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと。 イ 全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること。 ウ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組立ての効果を考えること。 エ 事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく(書いたりすること。 オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。	B書くこと ア 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと。 イ 全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること。 ウ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組立ての効果を考えること。 エ 事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく(書いたりすること。 オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。
		算数	A 数と計算 (1) 数の意味や表し方について理解し、数を用いる能力を伸ばす。 オ 簡単な事柄を分類整理し、それを数を用いて表したり、表やグラフの形に表したりすること。	D 数量関係 (1) 資料を表やグラフで分かりやすく表したり、それらをもよほたりすることができるようにする。 ア 日時、場所などの簡単な観点から分類したり、整理して表にまとめたりすること。 イ 棒グラフのよみ方及びかき方について知る。	D 数量関係 (3) 目的に応じて資料を集め、分類整理したり、特徴を調べたりすることができるようにする。 ア 二つの事柄に關して起こる場合について調べること。 イ 資料の落ちや重なりについて調べること。 ウ 資料を折れ線グラフに表したり、グラフから特徴や傾向を調べたりすること。	D 数量関係 (2) 百分率の意味について理解し、それを用いることができるようにする。 (3) 目的に応じて資料を分類整理し、それを円グラフ、帯グラフを用いて表すことができるようにする。
グラフ表をか						

表2 伝え方学習一覧表(一部抜粋)

方法	学習した内容	教科・学年・ページ
文章にまとめる	段落に分ける	国語3年上
	文のまとまりや順序を考える	国語5年上
	カードを使って情報を整理する	国語5年上
	むずかしい言葉に注(説明)をつける	国語5年下
	パンフレットの書き方	国語3年下
	説明書の書き方	国語3年下
	報告の文章の書き方(正しく伝える)	国語4年下
	報告の文章の書き方(事実と意見を分ける)	国語5年上
	感想文、意見文の書き方	国語5年上
	放送原稿の書き方	国語5年下
グラフを表す	数のちがいをあらわす(ぼうグラフ)	算数3年上
	数の変化をあらわす(折れ線グラフ)	算数4年上
	割合をあらわす(円グラフ、帯グラフ)	算数5年下
表にまとめる	1つのことについて表にまとめる	算数2年上
	2つのことについて1つの表にまとめる	算数4年上

伝え方を振り返り改善する活動を充実させるための指導の工夫

自分の伝え方を改善する活動を充実させるためには、自らの伝え方を振り返り改善する機会を増やすとともに、考えたことを基に伝え方を修正することが必要である。しかし、従来の口頭による発表形式では、相手に伝えて改善するという活動を繰り返し行うことは時間的な制約から難しい。また、紙媒体の資料では、完成後に修正できる範囲が限られるという課題がある。この課題を解決するためには、児童が、気付いたことを基に柔軟に修正できる発表方法が必要であると考えた。その方法の一つが、ビデオプレゼンテーション活動である。

ビデオプレゼンテーション活動とは、ビデオ作品を使って、自分の考えを相手に伝える活動である。ビデオ作品の作成はデジタルカメラと、パソコンを活用することで、児童にも比較的容易に取り組める。ビデオプレゼンテーション活動を取り入れることで、自分の考えを伝える活動において以下のような効果が得られると考えた。

ア 自己評価が容易になる。

自分の考えを伝えるための情報のすべてを一つの作品としてまとめるため、児童は自分の伝え方を自分で視聴して確認することができる。

イ 相互評価の機会を増やすことができる。

ビデオ作品を校内ネットワークで共有することで、自分のパソコンで友達の作品を見ることができる。これによって、時間や場所の制約をあまり気にすることなく、相互評価の機会を増やすことができる。

ウ 自己評価、相互評価を十分に生かして、伝え方を改善することができる。

デジタルデータは修正、復元が容易なため、柔軟に改善することができる。

2 授業研究

「自分の考えを伝える力」を育成するための指導の工夫の有効性を検証するため、第5学年において授業実践を行った。

(1) 検証授業の実施

検証授業「伝えよう～私たちの御殿山小学校～」では、幼稚園児が、小学校入学後に楽しく生活できるように、学校のことを伝えるという活動を行った。

相手が年少者であることから、分かりやすく伝えようという必然性が生まれると考えた。また、伝える内容が身近な話題である学校生活であることから、互いの作品の伝え方を自分なりの考えをもって、評価できると考えた。

(2) 検証授業の考察

本研究で考えた「自分の考えを伝える力」を育成するための指導の工夫の有効性について、児童観察と意識調査を基に考察した。

各教科で学習した伝え方を総合的な学習の時間で生かせるようにするための指導の工夫

分かりやすく伝える工夫が分からないまま、試行錯誤を繰り返していた児童に、教師が教科書を提示して、教科で学習したことを想起させる助言を行ったことで、具体的にどんな工夫をしたらよいか分かり、自分で工夫を考えられるようになった姿が見られた。このようにして、各教科で学習したことを総合的な学習の時間で生かすために、資料として教科書を

表3 指導の概要

単元名「伝えよう～私たちの御殿山小学校」(全15時間)	
主な活動	
自分の考えをもつ(1時間)	・幼稚園児が小学校入学後、楽しく生活できるように、学校生活で大切なことを伝えるという課題をつかむ。 ・自らの経験を基に、自分の考えをもつ。
伝え方を構想する(2時間)	・自分の考えを伝えるための計画を立てる。
自分の考えを伝えるための資料を用意する(4時間)	・資料をデジタルカメラで取り込む。
予想される児童の活動	・演技する ・絵や図で表現する ・言葉で説明する ・インタビューする ・実物を取材する
自分の考えを伝えるための作品を作る(6時間)	・ビデオ編集用ソフトウェアを使って資料をまとめる。
自分の考えを伝え、自分の伝え方を振り返る(2時間)	
・幼稚園児に自分の考えを伝える。 ・自分の考えが伝わったか、振り返る	

活用するという方法を身に付けることで、児童は自ら、分かりやすく伝える工夫を考慮できるようになった。

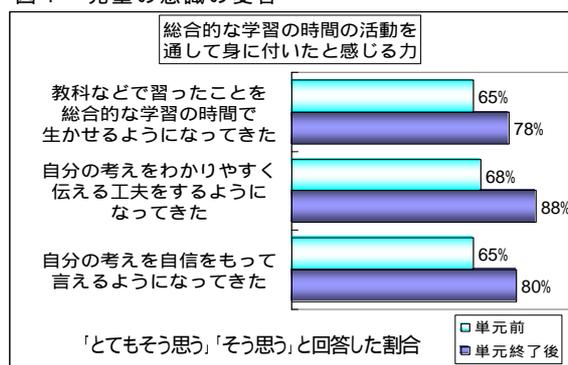
伝え方を振り返り改善する活動を充実させるための指導の工夫について

完成した作品を修正することに消極的であった児童が、多くの友達に自分の作品を見せ、意見を聞いたことで、自らの伝え方を振り返り、改善に取り組んだ。そして、その後は、伝える相手を意識して、自分の考えが分かりやすく伝わるかを考えて活動することができるようになった姿が見られた。このようにして、自らの伝え方を振り返る機会が増え、修正が容易になったことで、相手を意識して伝え方を工夫することができるようになった。

児童の意識の変容

総合的な学習の時間の活動を通して身に付いたと感じる力について単元の前後に意識調査を行い、その結果を比較したところ、本研究で課題としてとらえた項目のいずれにおいても、力が身に付いたと感じている児童の割合が増えた。この結果から、指導の工夫を取り入れることは、「自分の考えを伝える力」を育成する上で有効であると考えられる。(図1)

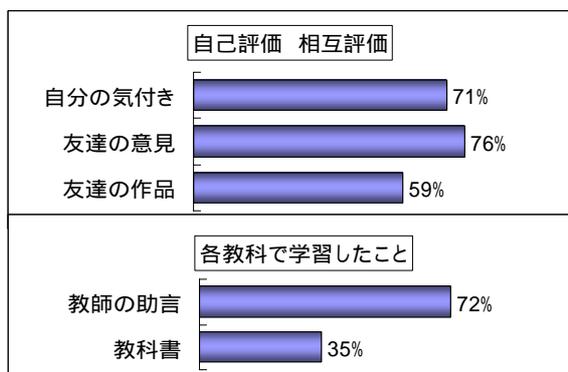
図1 児童の意識の変容



よりよい伝え方を考える上で効果的な活動

伝え方を改善する際に、参考になったことを児童に聞いたところ、自分の伝え方を振り返る活動においては、友達の意見であり、各教科で学習したことを生かすことについては、教師の助言であった。このことから、校内ネットワークを活用して伝え方を学ぶ活動でも、児童同士の意見交換や教師の支援を対面で行う機会の設定が大切であることが分かった。(図2)

図2 伝え方を改善する際に何が参考になったか



まとめ

教師が「伝え方学習一覧表」と教科書を活用して指導及び支援を行ったことにより、児童は、各教科で学んだことを生かすという、伝え方を工夫する学習の進め方が分かった。

また、ビデオプレゼンテーション活動を取り入れたことにより、児童は、自分の伝え方をしっかりと見つめ直し、相手の状況などに応じて伝え方を工夫しようとする態度を体験を通して、身に付けることができた。

「自分の考えを伝える力」を身に付けた児童は、他者の考えを聞く際に、相手が伝えている内容に加え、伝え方についても学び、考えられるようになる。これにより、総合的な学習の時間の活動において、自己の生き方を考える活動がより深まると考える。

今後の課題について

各教科で学習した伝え方を、児童自らが生かせるようにするための指導の工夫について、さらに追究する。